

Title	大津事件に就ての一観察(二)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.2 (1927. 5) ,p.108(260)- 108(260)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0108">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0108</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 大津事件に就ての一觀察 (二)

翌日又伺ひしに、昨日に替りたる御氣色にて昨夜新聞にて陛下神戸に御急行露艦に臨幸あらせられしとあり、是ならば十分のなされ方なりとて限りなく喜び給へり、其の後露國太子軍艦にて治療のまゝ歸航せしと聞き給ひ、のたまふには、露國侮るに堪へたり、若し太子緋帶のまゝ傲然東京に來り、ゆつたり市中を巡回せられんには是こそ、日本をひと呑みの氣概なれ、豪膽侮り難く、雄略測るべからず、然るを今軍艦に遁げ込み、直ぐ歸國に向ふとは何たる臆病ぞや、是れ智勇の輔佐なき爲めなり、一度狂人に傷つけられ、日本人皆同様の者と思ふは愚の至りなり、勇もなく、智もなき者許りならば、いかに大國なりとも一戦して勝ち得べし、其れ故に平常微細の事にも、有眼者より見らるゝ時は、臆腑まで洞見せらるゝものなり、一言一行決して迂濶にはならぬものぞと、懇々教戒を蒙りぬ。

(臥牛先生遺教より拔萃國分剛二)